

はわくわく 2007



出庭古墳群 SXI 出土二重口縁壺



小平井廃寺オリジナル 瓦当



手原遺跡 人名などが記された木簡



手原遺跡 海辺の生産遺跡から運ばれてきた焼塩容器

弥生時代中期の土器棺墓

坊袋遺跡 紀元前 1 世紀



坊袋遺跡は、これまでの調査で弥生時代中期後半の集落と墓地、後期後半の集落の展開が明らかとなっています。今年度の調査地は、中期後半の墓域にあたり、方形周溝墓3基と土器棺墓1基が確認されました。方形周溝墓は、小規模なもので一辺9.5m。大規模なものは一辺20mを測ります。写真は、方形周溝墓の南側で検出された土器棺墓に使われた土器です。口頸部を打ち欠いた大形の甕と近江の受口状口縁甕を利用した合わせ口の土器棺墓で、直径80cm程の土坑に大形の甕を下に斜めに据えるような形で埋納されていました。同様の土器棺墓は前年度の調査でも1基見つかっています。これらの土器棺墓はその大きさから幼児の墓と考えられます。(佐伯)

発生期の古墳群を調査

出庭古墳群 4 世紀

出庭古墳群は、野洲川左岸にある遺跡です。近くには4世紀前～中頃に築造された前方後円墳の亀塚古墳があり、削られているとはいえ、墳丘の名残りをみるすることができます。2008年度に調査した地点は、亀塚古墳から200m離れた地点にあり、4基の古墳が発掘されました。これらの古墳は、全て墳丘が削られており、地下から発掘されたものですが、周濠が良好に残されていました。調査の結果、これらの古墳は4世紀代中～後半を中心に作られたこと。3基の古墳は約12m四方の方墳ですが、前方後方墳として知られていた古墳は、後方部が一辺約18mであり、他に比べて大規模なことが判明しました。

出庭古墳群は一見すると平地にあるように見えますが、古くは野洲川に沿った自然堤防として、周囲より高い地形にありました。さらにこの地形は守山市(北西側)に向かって下ります。4世紀代に作られた亀塚古墳や出庭古墳群は、相当目立つ土地に営まれていたことが想像されます。(藤岡)



伝説の『けつね塚』発見？

狐塚古墳群 5 世紀

狐塚古墳群は市の中央に聳える安養寺山の北西斜面に点在する安養寺古墳群の一支群です。県内有数の帆立貝形古墳、椿山古墳（全長 99m）に西隣し、「栗太郡志」等で古くから知られる遺跡です。近年、直径 12m の円墳、狐塚 2 号墳、全長 32m の帆立貝形古墳、狐塚 3 号墳があいついで発見されています。

今回の調査では「狐塚」という名前の由来となった古墳（1 号墳）を 2 号墳と 3 号墳の間で発見しました。墳

丘とその外側に掘られた幅 8.2m の濠の一部を確認したのですが、全体はおそらく直径 28m くらいの比較的大きな円墳であろうと推定されます。

濠の中から出土した埴輪（朝顔形、円筒形）の特徴からすると、この古墳は 2 号墳に並行し 3 号墳に先行する、5 世紀後半～末の古墳として捉えることができそうです。（大崎）



白鳳寺院で生産関連遺構を確認

小平井廃寺 7 世紀

小平井廃寺の調査では、飛鳥～奈良時代とみられる生産関連遺構が発見されました。みつかった炉の下部構造は、瓦や粘土を敷いて本体を作り、湿気抜きに平瓦でトンネルを作るなど丁寧な作りです。その性格については铸造炉が考えられますが、炉の周囲では、炉壁や焼土が多量に出土するものの金属製品・金属滓・鋳型などは見られず、金属製品を製作していたものと断定はできません。ほかに、周囲から使用に耐えない歪んだ瓦が多く出土していることや、独特の瓦当文様から、瓦を焼いていた可能性も考えられます。しかし残存する炉の本体が約 1.4m と、大量の瓦を焼いていた窯とするには、小規模すぎるようにも思われます。

今回検出された遺構の性格については、今後解明されていくと思われますが、寺域の西のはずれにあたる場所に小平井廃寺に関連する何らかの物品を調達する施設が確認された事は、地方における白鳳寺院の様子を知る上で貴重な資料となりました。（雨森）



炉（窯）の出土状況

奈良時代の役所から文字資料 が大量に出土

手原遺跡 8世紀



北調査区

手原遺跡では、これまでの発掘調査によりJR草津線手原駅を中心に東側は官衙域、西側には白鳳寺院が存在したことが明らかとなりました。

今年度調査地は遺跡の東端で、近世（古代）東海道を挟み北側と南側の2箇所を実施しました。両調査区において、奈良時代から平安時代の高床倉庫を含む掘立柱建物を40棟以上確認しました。また、南側では奈良時代の深さ4mの井戸と、幅6m、深さ1.3mの溝を確認しました。溝からは木簡16点と文字の残る木簡削り屑200点出土し、須恵器の杯身や蓋を転用した硯や円面硯の出土など、地方の役人が文書事務に携わった様子が具体的に明らかとなりました。その他、「山」や「連」などと書かれた墨書土器が両調査区で計70点出土しました。（近藤・佐伯）



溝6



井戸



井戸出土のくびれ臼と桃核



南調査区



はっくつ 2007 一栗東市話題の発掘調査一

発行日 2008年3月21日

編集発行 (財) 栗東市文化体育振興事業団
〒520-3011 滋賀県栗東市下戸山47番地
栗東市出土文化財センター内
Tel077・553・3359 fax077・553・3514

印刷 株式会社スマイ印刷工業